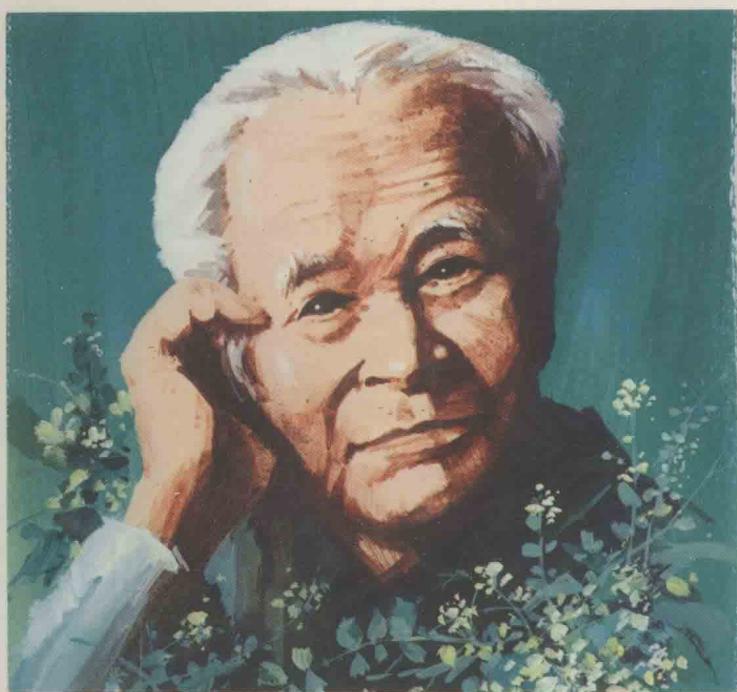


少年少女世界伝記全集

牧野富太郎

谷 真介



主婦の友社版

少年少女世界伝記全集 25

牧野富太郎

	谷 真介
	牧野富太郎
	主婦の友社 昭和52年(1977)
	166p 22cm
	〔分類〕909

筆 者 谷 真介

発 行 者 石川 晴彦

印刷・製本 凸版印刷株式会社

定 價 480円 昭和52.11.30 発行

発 行 所 株式会社 主婦の友社

東京都千代田区神田駿河台1-6

郵便番号 101 振替 東京2-180番

電話 東京(03)294-1111(大代表)

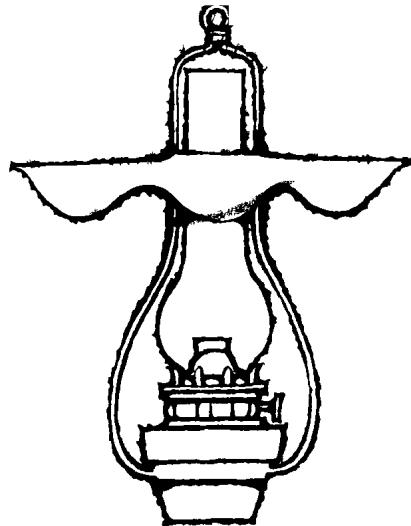
©1977 落丁・乱丁はおとりかえします。著者との話しあいにより検印廃止。

少年少女世界伝記全集

牧野富太郎

文・谷 真介

絵・金森 達



主婦の友社版

デザイン
装丁 駒宮録郎



フットボールの球たまほどもある白い大きなものが、落ち葉
の間から顔かおを出だしています。「これは、何なんだろう?」富太
郎ろうはその前に座まえり込んで、じっとみつめました。



くいあげてみると、まだ見たことのない水草みずくさでした。

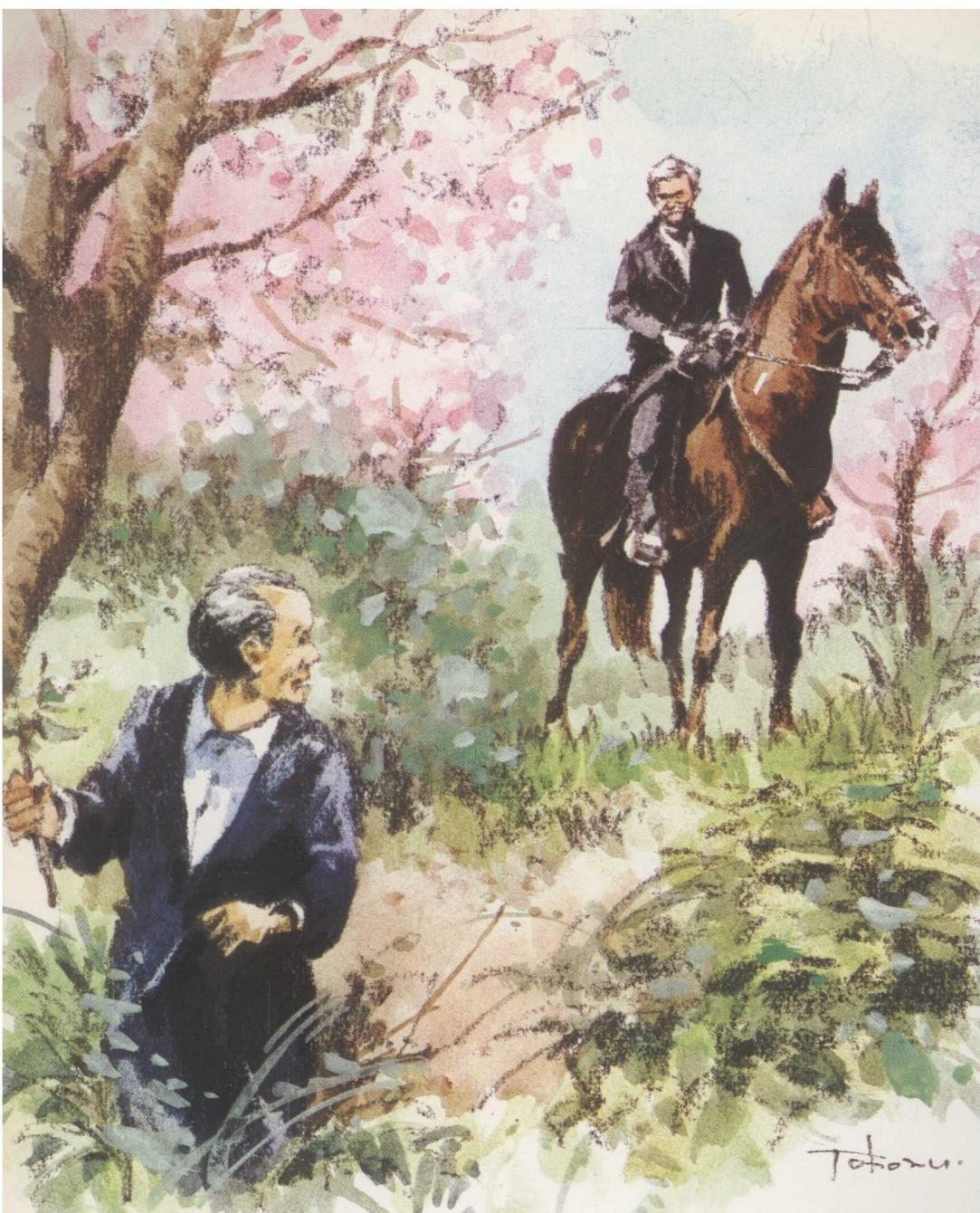


Totonosu.

富太郎はヤナギの下にいて、木に寄りかかりながらヤ
ナギの実を採ろうとしました。その時、ふと下の用水池
を見ると、不思議なものが水面に浮かんでいました。す



やま
山のふもとで薬業を営むひとの世話になった富太郎は、
やくぎょう
いとな
せわ
とみたろう
山のふもとで薬業を営むひとの世話になった富太郎は、
やくそう
と
しゅじん
あんない
やま
のば
めぐら
しそくぶつ
薬草を探っている主人の案内で山に登り、珍しい植物を
たくさん採集しました。
さいしゆう



おざきがくどう うま うえ とみたろう みお
尾崎畠堂は、馬の上から富太郎を見下ろして、「ここで、
やたらに草をとってはいかん。自然美を破かいしてはな
らん！」と、どなりつけたのです。

オオマツヨイグサ



ボロギク



ヤマトグサ



Tobiumu.

ノジギク





まきのとみたろうはつけんしそくぶつかずじゅうせつ 牧野富太郎が発見した植物の数は1600種にも達しました。

ほか がくめい ただ おやま ただ しそくぶつかず その他、学名を正したり、誤りを正した植物は数えきれ

試讀本
かず ない 数にのぼっています。需要全書
购买: www.ertongbook.com



富太郎は岩にへばりつきながら近寄り、ツクシシャクナ
ゲの株に手をのばしました。その時、足場の岩が動き、
富太郎はもんどううって、谷底へころげ落ちたのです。

みなさんへ

牧野富太郎博士は、わが国の誇る世界的な植物学者です。

高知県の山に囲まれたちいさな町に生まれた博士は、小学校も途中でやめて、大好きな植物の研究ひとすじに生きました。そして自分の力で「植物の父」といわれる大学者になつたひとでした。

しかし、その道は決してやさしいものではありませんでした。研究のために財産を失つた博士は、長い間貧乏のどん底で生活の苦しみとたたかいながら、心のせまい先輩の学者たちのつめたいしうちにもめげずに、つぎつぎと新しい植物を発見し、それに名前をつけて世界に発表していきました。

「好きなことをやつて身をたてる」ということは、そのひとつにとつて幸せなことです
が、たいへんな努力がいるものです。

牧野富太郎博士は、少年時代に志した「植物学者への夢」を、どのようにして実現させていったのでしょうか。

谷 真介

もくじ

土佐の山里で

時計 分解事件

植物物へ の興味

十七才の先生

ふたつの出会い

はじめての東京旅行

学校に入らなくても
相つぐ新種の発見
教授のしうちと親友の励まし

貧乏のどん底で

新しい出で発

87

79

72

62

53

53

45

37

31

22

15

15

植物学者への道

学校に入らなくても
相つぐ新種の発見
教授のしうちと親友の励まし

貧乏のどん底で

新しい出で発

45

37

31

22

15

15

あくことのない研究心

十五人家族とばく大な借金

救いの手と採集記録

悲しい“春の七草”

政治家と植物学者

“スエコザサ”よ永遠に

わたしは“植物の精”である

報いられた研究

野山をかけまわる老学者

樂しい採集会

ユーモアときびしさ

百才以上生きなければ

あとがき

年表

162

158

153

150

142

136

129

129

120

114

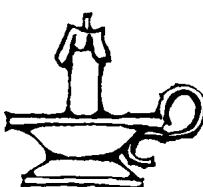
110

101

95

土佐の山里で

時計分解事件



牧野富太郎は、文久二年（一八六一年）四月二十四日、高知県高岡郡佐川村（現
在の佐川町）の大きな商家の子として生まれました。
佐川の町は、高知県の県庁のある高知市から二十七キロメートルほど西へ入つ